

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人誠心会あつたかハウス伊集院
(ユニット名)	あ い
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県日置市伊集院町下神殿1366-1
記入者名 (管理者)	町田大介 管理者 高田由子
記入日	平成 20 年 4 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「あったか地域であったか交流、みんなで作ろうあったかの輪」を職員みんなで念頭に置き取り組んでいます。	年間行事に地域交流会を年4回、計画し地域との交流を深めています。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」の理念を朝礼時、職員で唱和しフロアーの壁に見やすく掲示しています。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域交流会やあったか便りや月1回のご家族様へのお便りで理念に伴って接しています。	玄関先やフロアー内に掲示し常に目に入るように配慮しています。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	職場体験に来た中学生などに学校帰りにはお友達などと気軽にお茶を飲みに来よう声掛けしています。夕涼み会、花見、クリスマス会にも参加しておいただいています。	中学生や老人会の方々と交流の場を設け気楽に立ち寄って頂いています。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会や老人会の方々と地域交流会にお誘いし交流に努めています。	自治会長さん民生委員さんへ声掛けし交流の場を設けることができました。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>月行事開催のたびに参加の声掛けを行ったり、季節の野菜を植える際、助言を頂いています。</p> <p>食事会や茶話会を通してグループホームをわかりやすく説明し地域に溶け込めるよう努力しています。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>みんなで意見を出し合い、また指摘された点などを改善に向けて取り組んでいます。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>運営推進委員の方々にことらの近況をお伝えし、それについて意見を頂き向上に取り組んでいます。</p> <p>運営推進委員会を通して自治会長さんや民生委員の方々に協力を頂いております。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>行事へのボランティアの協力をお願いし不明な点は連絡を取って意見を取り入れています。</p> <p>社会福祉協議会を通じてボランティアの方々による踊りやカラオケなど慰問に来ていただいています。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>月1回のミーティングでわからないことがあればその都度勉強会をおこなっています。</p> <p>勉強会を開きわからない事や疑問に思ったことについてみんなで話し合い、理解に努めています。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>職員同士の言葉使いや態度について注意しあい、日常から気をつけています。</p> <p>入居者様と普段よりコミュニケーションをとりながら虐待のない介護を実施しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所、退所時は経過をご家族様にわかりやすく説明し納得した上で手続きをしています。</p>	<p>入所時、起こりうるリスクや料金についてご家族様やご本人に対して十分説明をし安心して過ごしていただけるようにしております。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者委員会を設けており入居者様・ご家族様の意見を真摯に受け止め申し送り時などに話し合いながら運営に反映させています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りで近況報告・写真を添えたりしています。金銭の預かり帳にも確認をしたうえでサインや印鑑を頂いています。(必ずレシートをつけて)</p>	<p>急変時は医療連携を図り主治医に連絡し必要時は病院受診しております。その際も電話で状況報告しております。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関の目のつくところに意見箱を設置したり第三者委員会を設けており苦情が出た際は理事長と解決の話し合いをし改善に努めています。</p>	<p>意見箱としてではなく、もっと気軽に助言などを書いていただけるよう工夫していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングで出た意見を大切に改善に向けて活かしています。</p>	<p>職員同士、意見を言いやすい雰囲気の中でミーティングを行っています。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている為、職員がいつでも連絡が取れる体制になっております。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の要望は余裕を持って言っていただき入居者様に負担がかからない様配慮しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず4月に全体の新人研修会に参加致しております。グループホームでは月々の勉強会を決め取り組んでいます。	月1回のミーティングを開きそれぞれに意見を出し合い向上に向けています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色々な研修の場などで同業者の意見や活動等を聴き、また相手方の職場に訪問したりしてより良いサービスが出来るよう努力しています。	セミナーや講習会に自発的に参加しレベルアップを図っています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常日頃、お互いに意見を言い合える仲間作りを目指しているため楽しく勤めています。また茶話会といった感じで遠慮のない話し合いが出来ております。	各種イベントを開催し職員のストレス軽減に努めています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の意見を取りまとめ会議の中で報告していただいています。それぞれの持ち味を活かして向上に役立て働いていただいています。	テキストや参考書を利用し大切な意識とマナーを身につけています。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談を通して入居者様の生活状況を把握して困っていることや不安な事等を聞き入れ日々のいろんな事に対して訴えなどが無い見落とさぬようにし又、全職員が申し送りなどしながら情報交換を行っています。	毎日の出来事などを送りノートに記録しそれぞれが目を通し確認印を押しています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様の要望をよく聞き以前の生活状況や施設の利用状況の把握をしその方にあったサービスを提供しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれの専門員と相談し、また本人、家族を交えて希望などをお聞きしケアプランを作成し支援を致しております。		入居者様に適したケアプランを作成し支援しています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意見を聴きながら少しずつ進めていき、また家族からの意見や情報を取り入れ工夫しています。		入所時にグループホームの説明を再度確認しています。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作り、料理作り等の指導をいただいておりますお茶飲みをしながら昔の言葉などの由来をなどお聞きしています。		若いスタッフが多いため指導を頂くことがあります。(節目節目のしきたりなど)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お便り等を出し、日常のことなどお互いに情報交換しながら安心して生活していただけるように心がけています。		花見や夕涼み会など一緒に参加して頂き食事等、共にされています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方と外出されたりし、本人との関係をうまく良い方向に導いていただいています。		面会時は自室で家族と共にお茶などを飲んでいただいています。またご家族様との写真を撮りお便りに同封しています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の地域の方々や地理的な事等に話題を持っていき常にコミュニケーションをとっています。		天気の良い日などは本人の馴染みの場所へドライブに行っています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	茶話会や外気浴等をしながらかそれぞれに孤立しないように支援しております。		地域の方やご家族様に頂いた野菜等を使用し漬物や干し大根などを皆さん協力して作っていただいています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や暑中見舞いの発送、また行事案内等をお送りし参加いただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人それぞれの健康状態等に考慮しながら行っています。		入院時等、面会に行ったりしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経験等をご家族様と共に情報交換を行いながら自力にて出来る事等はいただいています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の年齢等を考慮しながらケアプラン等に沿った支援を行っております。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング等を通じ意見や要望、本人の思いを聞き出しその方に合った計画を立て実行しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その人の日常生活を元にご家族とも話し合いの場を設け見直ししながら作成しています。		特記等あった場合、その都度見直しをして行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事等、水分量、排泄状況や本人の言葉や暮らしぶりなどを記録しており介護計画の見直しに役立てています。		あったか独自のアセスメント表があり職員間の情報共有を徹底しています。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし受診や入院の回避、医療処置を受けながら安心して生活が送れるように支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんにも日常的に立ち寄っていただき行事の際には参加していただいています。中学生の体験学習や福祉体験も積極的に受け入れています。		年2回、防火訓練等で消防署の方にもご指導いただいています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員との連絡を共有し事業所に事業所に見学に来られたり話を伺ったりし情報交換しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談員や介護保険課の職員と話し合いながら支援できるように取り組んでいきたい。		運営推進会議の際には包括支援センターにも連絡しご案内頂けるようお願いしておりますが日程の調整が困難なよう出席いただけていません。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ゆのもと記念病院と医療連携を図りながら常時状況報告に努め、体調の変化を早期発見できるよう支援しています。また協力医のほか、入所前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにご家族様と協力し通院介助を行っています。		ご家族様には入所時、説明し了解していただいた上で医療連携、居宅療養管理指導を受けて対応しています。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現在、看護職員がいないため、会議職員の記録や報告をもとに確実な連携を図っています。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		早期退院については医療機関との話し合いもしています。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		急変時にはすぐ対応できるよう協力医療機関とも連携を図り対応しています。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		他の事業所へ移られる場合は介護連絡表などお渡しし、顔なじみの職員が訪問したりしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その時、その人に合わせた対応、声掛けを行い、理念に沿って「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり。」を基本に支援しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の会話や行動から、入居者様のご希望を伺い、食事の献立でどんな料理を食べたいか、レクリエーション等で何をしたいか等、希望を取り入れています。	これからも入居者様が色々なご要望や自身の思いを言ってくださる様な信頼関係を作っていきたいと思っています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースでゆったりとした時間を過ごしていただきその方の状態に合わせて声掛け、見守りをし支援を行っております。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の美容院の方に2ヶ月のペースで来て頂き、本人様からどう髪を切られるか意見を聞き散髪していただいています。	ご家族様や本人の希望により他の美容院に行かれる事もあります。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などその方の能力に応じて行っています。もやしの根きり、皮むきなど。食事中も楽しく話を交えて片づけではお茶碗拭きをお手伝いして下さっています。	車椅子の方でも「手伝いをしましょうか？」と声をかけてくださりセッティングを行い、色々なお手伝いをいただいています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間に何を飲み、食べたいかリクエストを伺いお出ししています。お酒等は花見、クリスマス会などのイベントに希望にてお出ししています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別のサインを見逃さずに声掛けや誘導をしています。オムツ使用の方は朝食後、トイレに座っていただき排泄できるよう支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はお好みの時間を配慮しています。入浴の声掛けを行うも「入らん」と拒否される時がある方には再度の声掛けで「良か湯がありますよ。」等、声掛け入浴されました。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの睡眠パターンを把握しお昼寝や就寝等の声掛けをしています。夜、眠れない方には話などをして対応しています。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時の「いただきます」のあいさつ当番。色々なレクリエーションを考え楽しんでいただけるように支援し畑作業では「この野菜はこうの方がいいよ。」等アドバイスを受けながら行っています。		一人一鉢づつ花を植えていただき散歩等の際、花に水をあげたり花や畑の野菜が大きく育つのを日々楽しみにされています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行かれ好きなお菓子を選んで購入されたりヤクルト販売の方が来訪されご本人がお金で支払いをされています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様が外に出たい時、職員と一緒に散歩に出たりドライブをしたり天気が良い日はハウスの庭で茶話会を行っています。		自由に出入りが出き、入居者様が外に出たい時は一緒に散歩をしたりしています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブではお墓参り、実家へ戻られたりされ食事ツアーに参加されたり、時にはご家族様と外出をされています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様には毎月お便りを発送し近況を報告したり本人様の代わりに手紙やはがきの代筆、電話などは取次ぎを行っております。		ご本人が希望されるときにはご家族様に電話を掛けてさしあげています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間も決めておらずご家族様の都合のいい時間にいつでも来ていただけるよう声かけしています。		笑顔でお迎えしお茶の接待をしています。入居者様共々、気持ちよく過ごせるよう配慮しています。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティング時には身体拘束をしないケアについて勉強会を実施しています。帰宅願望時には一緒に外に出て散歩をしたりと気分転換を図り満足していただくよう心がけています。		拘束は一切していません。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出入りが出来るよう鍵をかけずに支援しています。外に出られた場合は職員も一緒に外に出て行動しています。		見守り等を行いながら入居者様にケガがない様努めています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者様と同じ空間で記録などを行い、常時入居者様の目の届く範囲に職員がいるようにしています。		夜間は巡視を行い安全に過ごせるよう配慮しています。(21時、0時、3時、5時)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などの管理には気をつけ、使用時には職員がそばにおり安全に使用するよう心掛けています。		入居者様が簡単に目につくところには保管せず、ポリドントなどの小さいものは薬品庫に保管し鍵をかけています。刃物は毎回使用したら流し台の奥に収納しています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急対応マニュアルが作成されております。常に入居者様の状態の変化には注意しています。年2回、防火訓練を行っています。		事故が発生した時には速やかに事故報告書を作成し今後の予防対策について検討しご家族様への説明と報告を行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応マニュアルもあり職員の周知徹底を図っています。消防署の協力を得て、スタッフ全員が普通救命講習を受講しています。		普通救命講習は2,3年のペースで更新が必要なため継続し受講しています。新人職員にも講習には行っていただき全職員が対応できるようにしています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者様と一緒に火災や地震、夜間想定など毎回設定を変え防火訓練を行っております。協力体制は自治会長さんをお願いしたり運営推進会議で参加を呼びかけています。		防火訓練の際に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行い、ご指導いただいております。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに関してはご家族様には面会時や電話やお便りにて連絡したり説明しています。		病気に関するリスクに関しては主治医より直接説明していただいております。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を職員は把握しているため少しでも様子が違う場合はバイタルチェックを行い、早期発見に努めています。状況に応じて看護師や主治医へ連絡し医療連携を図っています。服薬後も、状態の変化に気づけるように努力しています。		緊急時には主治医や看護師、管理者と連絡体制が出来ており、ご家族様にも連絡致しております。最初のバイタルチェックで普段とは違う数値が出た場合は赤印でチェックし再検しそれでも変化が見られない時には医療連携を図っています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表をいただいております、各モニタリングに整理し職員が内容を把握できるようにしています。服薬時はご本人に手渡すか服薬介助を行いきちんと服薬できているかの確認をしています。		薬に関してわからない事は直接、薬剤師さんに電話等して教えていただいております。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量を毎日チェックし食事も野菜を多く出すようにすたりと気を配っています。		繊維質の多いものや乳製品を多く出すようにおやつにも気をつけています。レクリエーション時に体操したり家事の手伝い、散歩などの機会を設け体を動かすよう努めています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、職員が声掛け、誘導し口腔ケアをしていただきます。夜間は義歯の方はポリドントに消毒を行っております。		月1回、訪問歯科にて指導をいただいております。事業所内で勉強会を行い、口腔ケアの重要性を全職員が理解しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士さんの指導のもと、栄養管理しています。食事チャートに摂取量、水分量を記録し気をつけています。		透析の方がいらっしゃるため病院や栄養士さんと連携を行っています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し全職員で事業所でも勉強会を開き学習しています。外出後の手洗い、うがい、手指消毒の徹底、面会に来られた方にも玄関先で手指消毒していただくよう呼びかけています。		入居者様及びご家族様に同意を頂き、職員共毎年インフルエンザ予防接種を受けています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日台所や調理器具を熱湯、日光消毒しております。また冷蔵庫の中のチェックもしております。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭菜園や花壇に花を植えたりし、どなたでも安心して出入りできるようにしています。		どなたでも出入りできるよう解放しております。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のものや花を飾ったりソファなど家庭的なものがあり心地よく過ごせるよう心掛けています。		季節の食べ物(冬には鍋料理、彼岸にはぼた餅など)をお出しし季節を感じていただけるよう努めています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いテーブルを囲み入居者様が全員と交流できるようになっています。フロア内にはソファを置き仲の良い入居者様同士でゆっくりと寛がれたり自由に過ごしていただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、寝具、タンスなどは家庭的な物を配置しています。ご家族様やご本人の希望によりテレビなどを持ち込まれている入居者様もおられます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に注意し天候に応じて部屋の窓や天窓も開放し健康的に過ごせるよう心掛けています。		業務日誌に毎日、温度、湿度を記録しております。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく安心して移動が出来るようにしております。また必要な所には手すりをつけ安全に過ごせるよう工夫しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物たたみや更衣など職員と一緒にいき自分で出来る事はしていただいております。		入居者様一人ひとりの能力に応じて行っています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や菜園を見に外に出て職員と一緒に水やりや草取りを行っています。		

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と入居者様のふれあいや会話が多くの、常に笑顔が見られます。季節の行事を大切に1年の移り変わりを感じていただいています。入居者様にご自宅にいらっしゃる時と変わらないような環境整備や温かい対応に心がけ、ご家族様にも心配をおかけしないように密な連絡体制を整えています。また地域との関わりも大切にし入居者様が溶け込んでいけるように努力しています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人誠心会あつたかハウス伊集院
(ユニット名)	ゆめ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県日置市伊集院町下神殿1366-1
記入者名 (管理者)	管理者 高田由子
記入日	平成 20 年 4 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念として「あったか地域であったか交流、みんなで作ろう、あったかの輪。」という理念を作っております。		地域型密着サービスの意義を全職員で確認し、入居者様が住みなれた地域で地域の方達との交流を大切にしながら安心した生活を送れるようにとの思いで理念を作っています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの理念とは別に「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり。」という理念があり職員一同、頭において入居者様を中心に、入居者様のペースに合わせたゆったりとした日常生活を送れるように支援しております。		ミーティング時や申し送り時に話し合い、確認し合っています。新入社員にも必ず理念を伝え、理解してもらうようしています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの玄関先やフロアーに大きく掲示しいつでも、どこからでも目に入るようにしています。ご家族様には面会時や家族会など折にふれ説明をしています。		毎月各担当者が送るご家族様へのお便りの中にも必ず記載し、地域交流会や見学に来られた方達にも説明を行っています。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近辺に住宅が少ないため公民館長さんも月1回は訪問していただき相談にのっていただいています。老人会長さんや公民館長さん、学校に声掛けして交流を進めています。		ハウスの隣で畑を作っている方との交流もあり挨拶や話をしたりしています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に自治会や老人会に声掛けし地域の人達との交流に努めています。(花見や運動会など)職場体験に来られた中学生の通学路にもなっているため学校帰りに気軽に立ち寄ってくださるよう声掛けしています。		3ヶ月毎に地域交流会を行なっています。(カラオケ、誕生会、食事会、敬老会など)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で自治会長さん、民生委員さん、介護保険課職員の方達と話し合い、地域の方達との交流の場を設けています。		地域交流会や近隣の老人会の方々をお招きした際に主治医や施設長より介護や医療に関する質問に対して説明を行っています。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員に伝え状況などを話し合いそれぞれに意見を出し合いながら全員で自己評価に取り組んでいます。		外部評価の結果は全体ミーティングで報告し、改善に向けて話し合いサービス向上に向けて努力しています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方達にハウスでの行事や状況などを話し合いそのことについて個々の意見をいただきながらサービスの向上に向けて取り組んでいます。		公民館長さんや民生委員さんにもご協力いただき交流会にも参加していただいています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会との連絡を密に取り行事等へのボランティアの方の参加を呼びかけて協力いただいています。		レクリエーション時に使う道具の貸し出しについてなど資料をいただいたので活用していきたいと思います。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる入居者様がいる場合は随時、職員にも説明し勉強会を開き理解を深めるようにしています。		新しく入った職員もいる為、わからない事や実例などを交えて勉強していきたいと思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを開き虐待防止に努めています。		介護方法などでわからない事や困った事がある時はみんなでお話し合いの場を設け、意見を互いに出し合いその方にとって一番良い方法で介護できるよう対処しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族や本人の意向を聞きながら利用料金、起こりうるリスクについては特にゆっくりと説明しています。またその時にわからなかった事や不明な点は電話や面会時に説明し納得していただいています。	体調不良やご本人の状態の変化により契約解除の際は、主治医より病状説明していただき納得の上、契約解除の手続きをさせていただきます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言葉や態度から何に対して不満に思っているのかの気づけるよう努力し入居者様本位の運営を心がけています。その時々入居者様の不安、意見などはユニットごとに話し合い改善に向けて取り組んでいます。	日常の会話の中から入居者様の思いを引き出せる事もありますが直接、職員に言えなくてもご家族様には話される場合もあるので面会時にお尋ねし参考にすることもあります。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	各担当者が毎月お便りで状況報告したり面会時、金銭帳など確認していただき印鑑や直筆でのサインを頂いております。	毎日の暮らしぶり、健康状態、職員の異動等についても毎月担当者が送るお便りやあったか便りにて報告しています。突発的な体調不良時には電話にて報告しています。面会時には直接日々の状況などをお話しています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には手紙や面会時、家族会などで常に問い掛け何でも言って頂けるような雰囲気作りをしています。また玄関入り口に意見箱を設置したり第三者委員会を設けています。現在苦情なし。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや勉強会時に意見を聞くようにしています。日頃からのコミュニケーションで不満など言いがたい部分を把握するように心がけています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている為、職員がいつでも連絡が取れる体制になっております。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者様やご家族様との信頼関係を築くためにも顔なじみの職員が対応する事が重要と考え、基本的には各ユニットの職員を固定化しいつもの職員によるケアを心掛けています。	新しく職員が入る時には入居者様にきちんと紹介をします。入居者様から教えて頂く事も多いです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できる様にしています。研修に参加した時はミーティング時に発表してもらい研修報告書を全職員が閲覧できるようにしています。		事業所内でも月1回、テーマを職員全員で決めて勉強会を行っています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行った時に事業所外の職員の意見や施設の雰囲気、取り組みなど良かった点や参考になった点を職員で話し合い、より良いサービスが出来るよう努力しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生が充実しております。チームワークもしっかりとれておりみんな楽しく仕事をしています。歓迎会、忘年会、ボーリング、カラオケなどに参加しストレスを溜め込まないよう常日頃より声掛け等行っています。		職員の疲労やストレスの原因について気を配り、その都度気分転換を図ったり解消に向けて話し合っています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援が積極的に行なわれており勉強会も開催されています。		それぞれが向上心を持てる職場環境、労働環境づくりに努めています。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望の相談があった時はご家族様、ご本人と会って心身の状態、ご家族様やご本人が今困っておられる事やご希望をお聞きし職員が受け入れていただけるようにしています。		本人と会ってお話をよく聞き、職員との信頼関係を築くことに努めています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までのご家族様の悩みやご苦労されて来た事等をゆっくり聞くようにしています。		ご家族様の不安や求めているものを理解し職員全員で話し合っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや現在の状況をお聞きし早急な対応が必要な相談者には理事長、他の専門員に相談し適切なサービスにつなげるなどの対応をとっています。		困っている事・不安なことをよくお聞きして可能な限り対応し必要に応じて他のサービス利用の調整をしています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族様にまず事業所を見学していただくところから始めやむを得ずすぐに入所となった時にはグループホームの役割を説明し入居者様には毎日の生活に少しずつ慣れていただくところから始めています。		ご家族様などに慣れるまでは来て頂いたり安心して生活していただける様に対応しています。

## 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	なにげない会話の中からご本人の思いや不安などを知ることが出来るように努めており一緒にお茶を飲んだりしながらコミュニケーションを図っております。		経験豊富な入居者様から普段より色々な事を教えて頂く事が多く漬物作りや干し大根の作り方など教えていただきながら一緒に行っております。時には人生相談にのっていただく事もあります。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎日の暮らしの出来事や気づいた点を面会時や毎月ご家族様に送るお便りにて報告し情報の共有に努めています。		ご家族様と協力関係を築くよう努めています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日頃の状態を小まめに報告したり手紙や年賀状などご自身で書いていただいたり職員が代筆したり関係が途切れないよう配慮しています。		面会時にお茶をお出しし自室でゆっくりと過ごしていただいたり行事にご家族様をお招きし良い関係が保てるよう努めています。日常での外出や年末年始の外泊などご本人やご家族様のご希望に添える様、柔軟な支援をしています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時にご家族様よりお聞きし行きつけの美容院がある方はその店にお連れしたり定期的に墓参りにお連れしたりしています。		馴染みの知人の方やお友達が尋ねて来てくださるのでご家族様同様、笑顔でお迎えしゆっくりと過ごしていただける様にしています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時など介助の必要な方に対しエプロンを付けていただいたり配膳や下膳なども手伝っていただいています。		毎日のお茶や食事時間は職員も一緒に過ごしその時の気分や体調、感情で変わる事もある為、入居者様同士の関係がうまくいくよう注意して見守るようにしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>あったか便りの発送、年賀状や暑中見舞いの発送を行っています。外部でお会いする事も多い為、挨拶や近況を伺ったり行事の際に招待状を発送したりしています。</p>	<p>退所されたご家族様より野菜をいただいたり現在でも良い関係が続いています。</p>

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>なにげない会話の中で、その方の言葉や表情などから真意をくみ取り確認するようにしています。</p>	<p>意思疎通が困難な方にはご家族様から情報を得るようにしています。</p>
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時、ご家族様との面談時にお聞きしています。入所後も折にふれご本人やご家族様に伺っています。</p>	<p>会話の中での本人の語りやご家族様の面会時などに少しずつお聞きし把握するようにしています。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者様一人ひとりの生活リズムをつかみ、その方の持てる力に着目しその人全体を把握するようにしています。</p>	<p>片麻痺のある方でも新聞折りなど出来る事は手伝っていただいています。車椅子の方には座って出来る作業を(おしぼりたたみや洗濯物たたみ等)、自立されている方には掃除や畑の草抜きなどをしていただいています。</p>

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各入居者様ごとに担当者を決めていて気づいた点を情報収集し毎日の申し送りやミーティング時に意見交換しながらケアプランの作成に活かしています。</p>	<p>ご本人やご家族様には面会時や普段の関わりの中で思いやご意見、ご要望を伺いながら作成しています。</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ご家族様やご本人の要望を伺いながら主治医の意見も取り入れ期間終了前に見直しを行い、状態が変化した際にはその都度見直しを行っています。</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄状況や本人の言葉や暮らしぶりなどを記録しており介護計画の見直しに役立てています。		あったか独自のアセスメント表があり職員間の情報共有を徹底しています。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし受診や入院の回避、医療処置を受けながら安心して生活が送れるように支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんにも日常的に事業所に立ち寄っていただいたり行事の際には参加いただいています。近隣の中学生の体験学習や福祉体験も積極的に受け入れています。		花見や夕涼み会、クリスマス会などの行事には社会福祉協議会を通しボランティアの方々に来ていただきお手伝いしていただいています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員との連絡を共有し事業所に見学に来られたり話を伺ったりし情報交換しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談員や介護保険課の職員と話し合いながら支援できるよう取り組んでいきたい。		運営推進会議の際には包括支援センター長に出席頂けるようご案内差し上げていますが日程の調整が困難なようで出席いただけていません。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ゆのもと記念病院と医療連携を図りながら常時状況報告に努め、体調の変化を早期発見できるよう支援しています。また協力医の他、入所前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族と協力し通院介助を行っています。		ご家族様には入所時、説明し了解していただいた上で医療連携、居宅療養管理指導を受けて対応しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>24時間協力医療機関、または直接主治医との連絡がとれるので指示がすぐ受けられ治療も受けられる体制が出来ています。</p> <p>常に医療連携も図り看護師や主治医と連絡を取り合っています。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>協力医療機関と連携を図り、看護師も週に1度様子を見に来てくださるので日頃の健康管理や医療面での助言を頂いたり相談に乗っていただいています。</p> <p>現在、看護職員がいない為、介護職員の記録や報告をもとに確実な連携を図っています。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院時にはご本人の普段の状況や支援方法などを医療機関にお伝えし頻繁に職員が見舞い早く元気になるようにと声掛けしています。</p> <p>入院によるダメージを極力防ぐため早期退院について医療機関との話し合いもしています。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>状態の変化があるごとに主治医、ご家族様、職員が話し合い連携を取りながら支援しています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>ご本人やご家族様の思いを一番に考え主治医、職員が連携をとり納得した最期を迎えられるよう支援しています。</p> <p>急変時にはすぐ対応できるよう、協力医療機関とも連携を図り対応しています。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>他の事業所に移られた時に今までの生活が損なわれないように支援内容や必要な注意点などについて情報提供しダメージが最小限になるよう努めています。</p> <p>顔なじみの職員が訪問したりしています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特にトイレ誘導などに関しては本人を傷つけることのないよう、さりげなく声掛けし、介助しています。	勉強会を開き、職員の意識向上に努めています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	10時、3時のお茶の時間はメニュー表を作成し、その時に飲みたいものをご本人に選んでいただいております。	食事の献立やおやつなど入居者様の希望や意見を聞き取り入れています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが買い物に行ったり散歩に行ったり墓参りに行ったりとそれぞれの思いに配慮しながら支援しています。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣の美容院の方に2、3ヶ月のペースで来て頂きカットしていただいております。更衣時や入浴の着替えの準備を職員がお手伝いする時はご本人の好みを聞きながら行っています。	ご本人やご家族様のご希望があれば行きつけの美容院に行かれたり職員がお連れする事もあります。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなど出来るだけ多くの入居者様に関わって頂ける様、出来ることを分担して職員と一緒にしています。	職員と入居者様と同じテーブルを囲み会話しながら食事を楽しく出来るよう雰囲気作りにも努めています。事業所の畑で取れた野菜を調理前にお見せすると「よかのが、できたね～」といい反応が見られます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、タバコやお酒を日常的に希望される方はいらっしゃいませんがお酒は花見やクリスマス会などの行事時に希望があればお出ししています。	ご家族様の許可も頂いた上で好きなおやつなどを購入していただける様支援したり、面会時に持ってきていただいております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し時間や習慣の把握に努めトイレ誘導を行い、トイレで排泄していただくよう支援しています。		介助が必要な入居者様で直接職員に「トイレに行きたい」と訴えられる方もおられる為、その都度トイレ介助しています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は好みの時間を配慮しています。入浴が好きでない方にも声掛けなど工夫し支援しています。		声掛けしても体調不良を訴えられたりその時の気分で入浴されない場合は無理強いせず清拭、更衣などで対応しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握しなるべく日中に活動し生活のリズムを整えるように支援しています。		眠れない入居者様には話をしたり一緒に飲み物を飲んだりして過ごし様子を見ながら声掛けし入眠していただいています。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力を発揮してもらえる様、お願いできそうな仕事をお願いし(裁縫、調理、掃除、野菜作りの指導など)感謝の言葉を伝えています。		特に季節感のある漬物、梅干、切り干し大根、おやつ作りに参加できるよう支援しています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、入居者様それぞれの希望に応じ金銭管理の支援をしています。ご家族様の協力を得て少額のお金を持っている方もおられます。		墓参りに行った際に花屋に立ち寄りご本人に直接お金を手渡し買っていたり買い物に出かけお菓子を買われたりされています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やご本人の気分や希望に応じ外に出て庭先でお茶を飲んだり散歩やドライブに出かけています。		年に2回の外食ツアーを行ったり花見等で出かけ外の空気を感じながら食事をしていただいています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今まで住んでいた家に行ってみたい、墓参りに行きたいと言われた時は勤務の調整をしながら希望が叶うようにしています。		ご家族様やご本人の希望があれば実現に向けて取り組んでいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「気になることがあるんだけど耳が遠くて聞こえないから代わりに電話をして聞いて欲しい。」と言われる入居者様には代わりに電話をかけてさしあげたり「手紙の返事を出したいけど思うように手が動かないから書いて欲しい。」と言われる方には手紙しています。		年賀状などもご家族様に書いていただいています。入居者様の希望に応じて電話や手紙を出せるよう支援しています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間も決めておらずご家族様の都合のいい時間にいつでも来ていただけるよう声掛けしています。		笑顔でお迎えし気軽に来やすい雰囲気作りに心がけています。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、身体拘束をしないケアについて勉強会を実施し職員の意識の向上を図っています。		車椅子利用者の方も多いですが見守りや声掛けで滑落防止に努めています。オムツ外しをされる方にもサインが見られる為、その都度、訪室し対応しています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出りできるよう鍵をかけずに支援しています。居室にも鍵をかける事はなくご本人の希望に応じ、ドアだけ閉める方、開けたままの方とそれぞれいらっしゃいます。		入居者様が外出しそうな場合は、さりげなく声掛けし一緒について行きます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者様と同じ空間で記録などを行い常時、入居者様の目の届く範囲に職員がいるようにしています。		夜間は巡視を行い安全に過ごせるよう配慮しています。(21時、0時、3時、5時) 夜間の休憩は全居室が見渡せるようフロアのソファで休んでいます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤や刃物の管理には特に注意しています。刃物を使用する際は職員が見守りし安全に使用していただいています。		洗剤は手の届かない所に保管し使用時は職員と一緒にしようとしています。ポリドントなどの小さなものは薬品庫に保管して常時鍵をかけています。刃物は台所に保管してますが夜間帯は台所の入り口の扉を閉めております。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急対応マニュアルが作成されおり、又日々のヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っています。防火訓練も年2回行っています。		事故が発生した際には速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策について検討しご家族様への説明と報告を行っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応マニュアルもあり職員の周知徹底を図っています。消防署の協力を得てスタッフ全員が普通救命講習を受講しています。		普通救命講習は2, 3年のペースで更新が必要なため、継続し受講しています。新人職員にも講習には行っていただき全ての職員が対応できるようにしています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者様と共に火災や地震、夜間想定など毎回設定を変えて防火訓練を行っております。協力体制は自治会長さんをお願いしたり運営推進会議で参加を呼びかけています。		防火訓練の際に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行い、ご指導いただいています。
72	どの 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに関してご家族様には面会時や電話やお便りにて連絡したり説明しています。		病気に関するリスクに関しては主治医より直接、説明していただいております。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しているため少しでも様子が違う場合はバイタルチェックを行い早期発見に努めている。状況に応じ看護師や主治医へ連絡し医療連携を図っています。		緊急時には主治医や看護師、管理者と連絡体制が出来ていてご家族様にも連絡いたしております。最初のバイタルチェックで普段とは違う数値が出た場合は赤印でチェックし再検しそれでも変化が見られない時には医療連携を図っています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表をいただいております各モニタリングに整理し、職員が内容を把握できるようにしています。服薬事は本人に手渡すか服薬介助を行いきちんと服薬できているかの確認をしています。		薬に関してわからない事は直接、薬剤師さんに電話等してご指導いただいています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	レクリエーション時に体操をしたり水分量をチェックしています。食事やおやつにも気を配り繊維質の多いものや乳製品、野菜等を多く出すようにしています。		家事の手伝い、散歩などの機会を設けおやつもなるべく手作りし果物も取り入れるよう心がけています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、その人の能力に応じ、見守りや介助を行っています。就寝前は義歯をお預かりしポリデント消毒しております。		月1回、訪問歯科にて指導をいただいております。事業所内で研修を行い口腔ケアの重要性を全職員が理解しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士さんの指導のもと栄養管理しています。毎日食事チャートに記録し職員全員が情報を共有しています。		咀嚼や嚥下の状態に合わせ主食や副食を柔らかくしたり細かく切ったりしてお出ししています。ご本人やご家族様に好き嫌いをお聞きし苦手なメニューの際は別メニューをお出しする等、柔軟に対応しています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し全職員で事業所内でも勉強会を開き学習しています。		入居者様及びご家族様に同意を頂き、職員共に毎年インフルエンザ予防接種を受けています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん等は毎日漂白し殺菌・消毒しています。また冷凍庫や冷蔵庫の点検を毎日行いチェックしております。		毎日買い物に行き、なるべく買いためしないようにしています。

## 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### (1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	安心して出入りしていただける様に花を生けたりプランターを置いたりし誰もが来やすい雰囲気作りをしています。		玄関前の畑に花や野菜を植え、玄関のドアは常に開けておくようにしています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節を感じられるものを飾ったり季節の食べ物やおやつ(冬には鍋料理、彼岸にはぼた餅など)をお出ししています。		台所がフロアの中央にある為、ご飯の炊ける匂いや茶碗を洗う音が自然に聞こえます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いテーブルを囲み入居者様が全員と交流できるようになっています。フロア内にはソファを置き仲の良い入居者様同士で話をしたりとゆっくり寛げるスペースがあり、自由に過ごしていただいています。		談話室にもソファを置き食後にゆっくり足を伸ばして寛がれる入居者様もいらっしゃいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、寝具、タンスなどは家庭的な物を配置しています。ご家族様やご本人の希望によりテレビや冷蔵庫等を持ち込まれている入居者様もおられます。		自宅に戻られた時に持ってこられた表札を飾っておられる入居者様やご家族様がひ孫さんの写真を飾って下さっている入居者様もおられます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や食事後などに換気を行っています。天候に応じて天窓も開放し入居者様の様子を見ながら温度調整しています。		温度計、湿度計を設置し10時、15時と記録しております。トイレや使用済みオムツを置いている脱衣所は換気扇や消臭剤で悪臭が出ない様心掛けています。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており必要な所には手すりが設置され安心して生活出来るように対応しています。浴室にも滑り止めや手すりを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の目のつく所にトイレ、浴室などわかりにくい場所への目印を表示しています。		入居者様個人の持ち物には大きくはっきり名前を書き、不安や混乱をなくすようにしています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日にはテーブルやいす等を持ち出し、お茶を皆さんで飲んだり外気浴をしたり外の空気や景色を楽しんでいただいています。		ハウス前の畑を利用して入居者様と一緒に野菜の植え付けや収穫をし活動できる場を作っています。



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と入居者様のふれあいや会話がが多く、常に笑顔が見られます。季節の行事を大切に1年の移り変わりを感じていただいています。